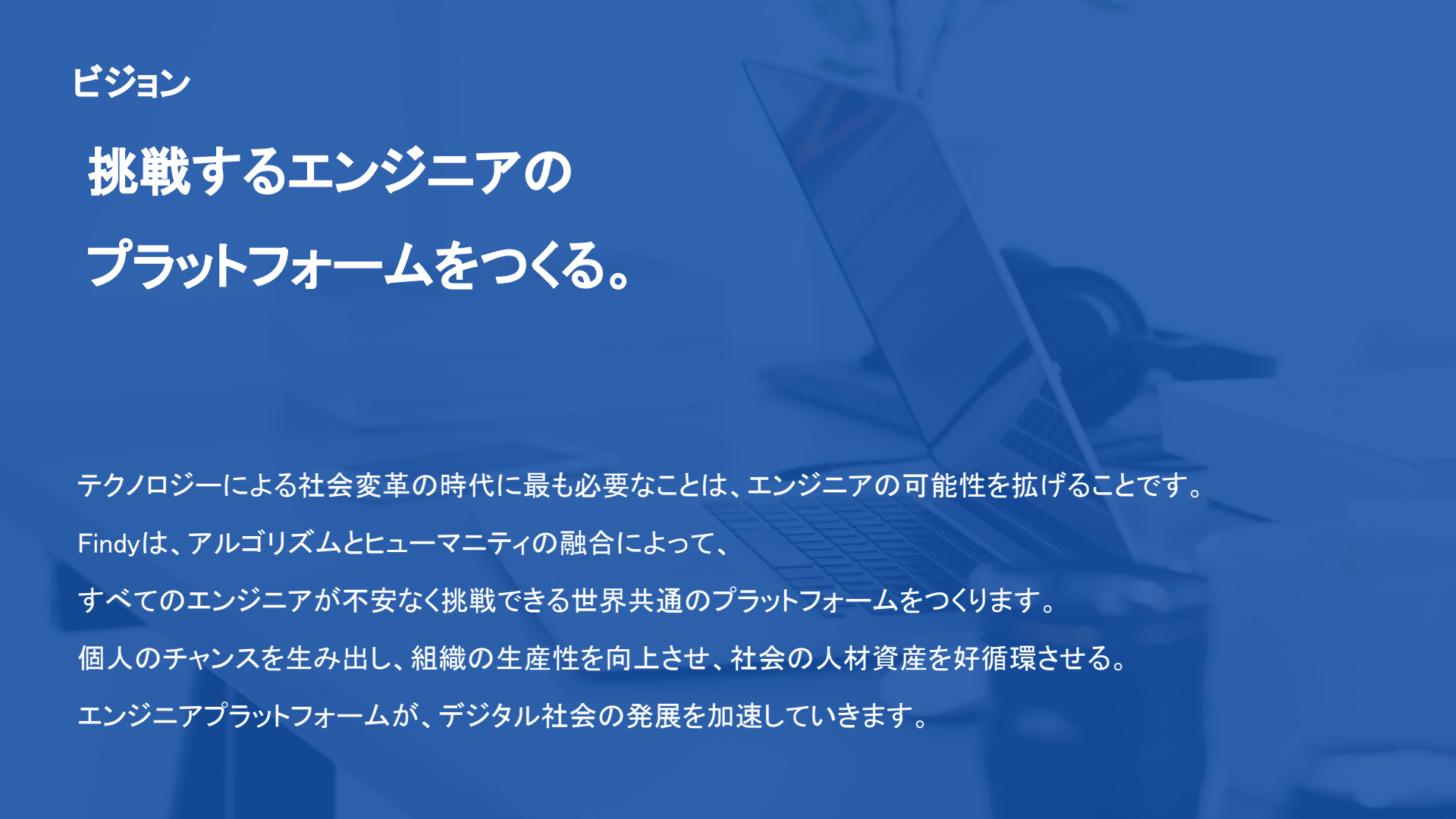




Findy Team+のご紹介

Findy Team+事業部
副事業部長 小林 智貴



ビジョン

挑戦するエンジニアの プラットフォームをつくる。

テクノロジーによる社会変革の時代に最も必要なことは、エンジニアの可能性を拡げることです。

Findyは、アルゴリズムとヒューマニティの融合によって、

すべてのエンジニアが不安なく挑戦できる世界共通のプラットフォームをつくります。

個人のチャンスを生み出し、組織の生産性を向上させ、社会の人材資産を好循環させる。

エンジニアプラットフォームが、デジタル社会の発展を加速していきます。

会社概要

会社名	ファインディ株式会社 / Findy Inc.
代表者	山田 裕一朗
設立	2014年2月（本格的な事業開始は2016年7月）
社員数	297名
資本金	18億5,043万円（資本準備金含む）
住所	東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー 5階
事業許可番号	13-ユ-308478
事業内容	IT/Webエンジニアの転職サービス「Findy」 ハイスکیلなフリーランスエンジニア紹介サービス「Findy Freelance」 エンジニア組織の開発生産性可視化・向上SaaS「Findy Team+」 開発ツールのレビューサイト「Findy Tools」

経営陣



代表取締役 山田 裕一朗

元レアジョブ執行役員。三菱重工工業、BCGを経て2010年、創業期のレアジョブに入社。



取締役CTO 佐藤 将高

元GREEフルスタックエンジニア。東京大学 情報理工学系研究科 創造情報学専攻卒業後、GREE入社。*大学院では、稲葉真理研究室に所属。自然言語処理やデータマイニング関連の論文を執筆。

投資家

グローバル・ブレイン、ユナイテッド、SMBCベンチャーキャピタル、KDDI、JA三井リース、みずほキャピタル、博報堂DYベンチャーズ、Carbide Ventures、等

- * 2019年5月 シリーズAで2億円調達
- * 2020年7月 シリーズBで5.5億円調達
- * 2022年4月 シリーズCで15億円調達

事業展開

現在は、エンジニア市場を支える3つの事業・4つのサービスを展開しています

マッチングサービス

ToC / ToB



正社員エンジニアの採用

約12万人のエンジニアと1,100以上のテック企業をマッチング。



Findy Freelance フリーランスエンジニアの採用

5万人以上のフリーランスエンジニアの成功報酬型の人材紹介サービス。



組織分析SaaS

SaaS / ToB



エンジニア組織の 開発生産性可視化・向上

GitHubやJiraを解析し、エンジニア組織の見える化と生産性向上をサポート。



開発ツールメディア

β版

ToC / ToB



開発ツールのレビューサイト

実際に利用している企業の声を元に、開発ツールの導入や検討に必要な情報を集約。企業の技術選定をサポート。



これまでの実績

2021年10月に正式リリースし、450社以上の企業様（トライアル含む）に
業種・規模問わず、ご利用いただいております



朝日新聞



NECネットエスアイ



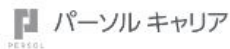
GMO MEDIA



SODA inc.



DMM.com



弁護士ドットコム



Monstarlab

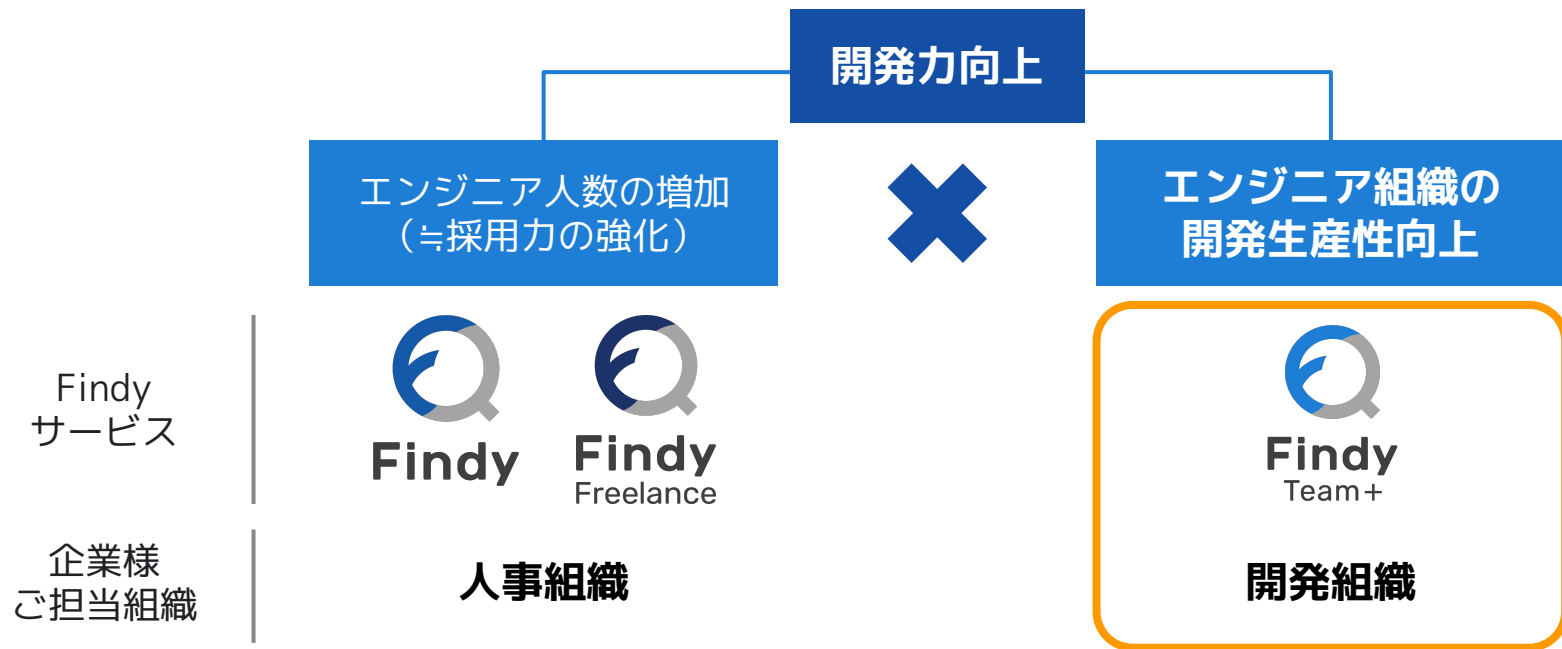


NEWS PICKS



サービス概要

「Findy Team+」は、開発組織のパフォーマンスを可視化し、
開發生産性を向上させることで、企業の開発力向上を支援します

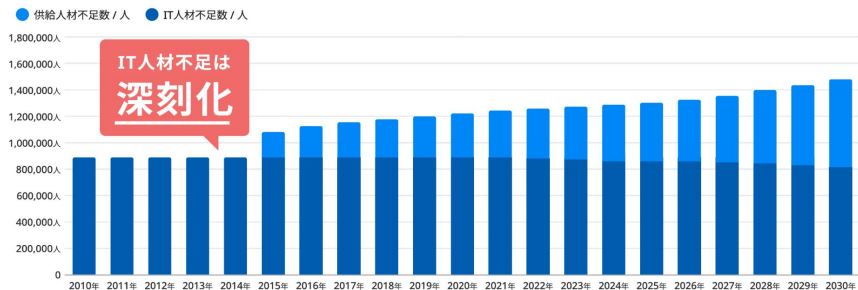


社会的意義

開發生産性の向上によって、企業の良質な開発環境・組織文化の醸成を支援し、
社会的課題である国内エンジニア不足解消に貢献いたします

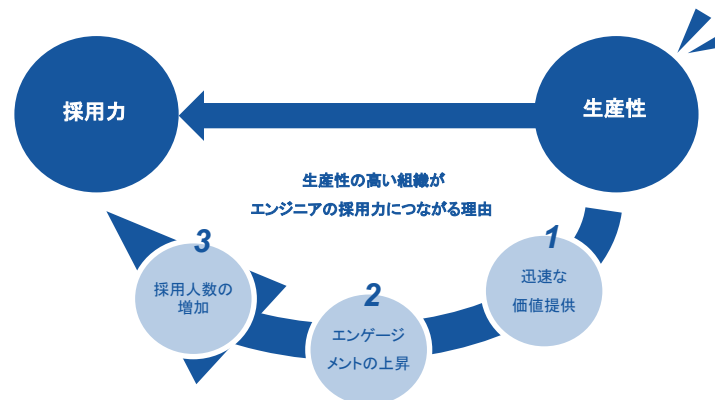
2030年に最大70万人のエンジニアが不足

IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果



今回の推計では、将来の市場拡大見通しによって低位・中位・高位の3種のシナリオを設定。低位シナリオでは市場の伸び率を1%程度、高位シナリオでは市場の伸び率を2~4%程度（アンケート結果に基づく将来見込み）
中位シナリオはその中間（1.5~2.5%）と仮定した。さらに、低位・中位、高位の各シナリオに月、今後の労働生産性に変化がない場合と、労働生産性が毎年1%及び3%向上する場合の3種類の推計結果を算出した。
※経産省・2016年

「開發生産性」を「採用力」につなげる



サービス詳細

世界中のエンジニアが使用するソースコード管理ツールの
「GitHub」等と連携・データ解析し、データで生産性向上をサポートします

インプット情報

< 提供中 >



GitLab



< 開発予定 >



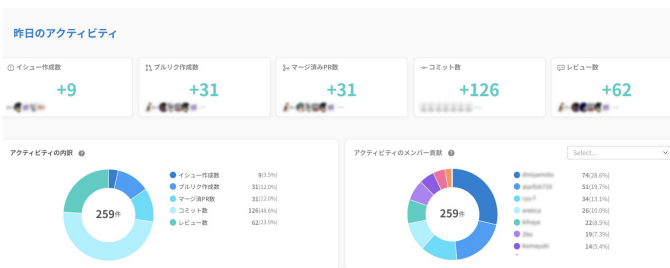
開発組織の課題に見える化

Point

- 開発チーム・メンバー毎の活動状況を **自動計測**
- 開発組織内のボトルネック/課題を **可視化**

①生産性の向上、組織検討
・マネジメントサポート

②エンジニアが成長できる環境づくり、
学習する組織・自己組織化へのサポート

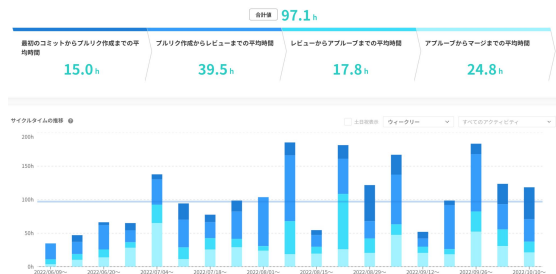


特徴

開発プロセスのボトルネック特定、他社データとの比較を通じた成長加速、改善に向けた手厚いサポートがFindy Team+の特徴です

【特徴①】

開発プロセスの
ボトルネックを簡単に特定



5分の初期設定後、GitHubやJira等における開発アクティビティを自動で集計・可視化。

【特徴②】

チームの成長が加速



自社チーム、他社データと比較することで、開発パフォーマンス改善のヒントが得られます

【特徴③】

改善に向けた
手厚いサポート



開発チームの多様な課題に応じて、カスタマーサクセスチームが、豊富なノウハウで徹底伴走

提供価値

Findy Team+のご利用を通じて、開発工数低減・ビジネススピード加速、
開発プロセス改善・文化づくりをサポートします

Biz

開発工数低減

(年間20億円以上*1の開発工数低減事例あり)

Biz

ビジネススピード加速

(開発スピードの向上により、サービス提供スピードも加速)

Engineer

開発プロセス改善

(ボトルネック可視化、開発フロー・人員配置・ツールの最適化)

Engineer

文化づくり・自己組織化

(チームメンバーの自発的な改善促進、改善を称賛する文化作り)

*1：弊社の改善効果（稼働人数10人）を、エンジニアのアクティブ稼働人数が50人以上組織の中央値（約120人）で換算

企業価値向上への寄与

技術投資や生産性向上による開発組織強化の取り組みをIR資料に掲載するなど、
経営層の方々にも注目いただいております

(株) ワンキャリア様

業績ハイライト
ビジネスアップデート



Tech投資進捗_テクノロジー組織の拡大と成長

BUYSELL
TECHNOLOGIES

- エンジニア採用体制の構築・運用が進み、テクノロジー組織拡大へ向け順調に進捗中
- “エンジニア組織の生産性指標が高い企業”として「Findy Team+ Award 2022」を受賞



取締役CTO 今村 雅幸
2006年ヤフー入社。様々な新事業開発部に従事
その後VASILYを創業、取締役CTO就任
2020年にVASILYを売却後、2020年テクノロジーズCTO就任
プロダクト開発や組織マネジメントにおいて幅広く活躍
2021年4月BuySell Technologies取締役CTO就任
日本CTO協会理事

テクノロジー戦略本部長 松榮 健至

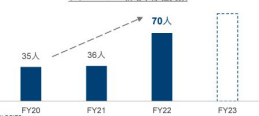
2012年グーグル入社。高トラフィックなゲーム開発エンジニアとして従事
その後数タイトルをプロデュースとして担当。子会社funplusのゲーム
プロダクション部長として事業を推進
2018年 BuySell Technologiesへ入社
プロダクト開発・開発組織のマネジメントを担当

「Quantity × Quality」の両輪でテクノロジー組織の成長を実現
生産性向上

テクノロジー組織の拡大

大手IT企業からエンジニアリングマネージャーや
テックリード職の人材採用を強化

テクノロジー戦略本部社員数



2023年10月にパートタイマー企業が100社を突破。

“エンジニア組織の生産性指標が高い企業”として
「Findy Team+ Award 2022」を受賞



人的資本の充実に直結 個人の能力が十分に発揮でき、チームによる学びが促進される環境

(株) BuySell Technologies様

(株) いい生活様

価値、人的資本の充実に直結

律的なチーム運営を重視
プログラムを基本としたアジャイル体制



ユーザーへの価値提供のサイクル改善

「Findy Team+ Award 2023」

開発生産性の高さが評価



(注) API「アプリケーション・プログラムデザインインターフェース (Application Programming Interface)」の略称で、ソフトウェアやプログラム、Webサービスの開発やインターフェースのこと。
(注) 「Findy Team+ Award 2023」：ファイディン株式会社「Findy Team」の利用企業を対象にエンジニア組織の生産性指標を算出し、2023以上の企業と2,000を超えるチームより「組織開発部門にエンジニア組織の生産性指標が高い企業」「特定の生産性指標が高かったチーム」「開発生産性向上に努めて、優れた取り組みを行った企業」を表彰。（ファイディン株式会社「Findy Team+ Award 2023」）<https://award.findy-team.jp/2023/>。

ご活用事例①

DMM.com

Findy Team+ご利用により、開発リードタイムの改善を実現

Case study

プルリクのリードタイムを 5分の1に劇的改善。

科学的思考とオーナーシップで変革する
DMM.comのエンジニア組織

DMM.com

木村剛士
プラットフォーム事業本部
マイクロサービスアーキテクトグループ認証認可チーム



チームサマリ

リードタイムサマリ

平均プルリククローズ時間

140.8h

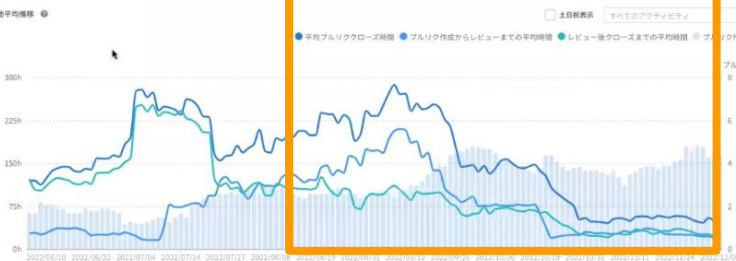
プルリク作成からレビューまでの平均時間

72.3h

レビュー後、クローズまでの平均時間

74.8h

稼働平均稼働



可視化を通じて課題を共通認識化し、チーム全体で
定量データを用いた施策の効果検証にチャレンジ

8月中旬から取り組みを開始し、
リードタイムが減少・安定

- 上記チームの取り組み詳細 https://blog.findy-team.io/posts/interview_dmm_01/
- 他チームにおける活用事例 <https://blog.findy-team.io/posts/dmm-com-ebook-native-android/>

開発現場でのAI活用効果を、Team+を用いて検証

@hironaito (Hiroki Naito) in 株式会社ゆめみ

GitHub Copilot 導入で開発者の満足度が向上！プルリクエスト数も増加したデータ公開

GitHub nps findy copilot githubcopilot

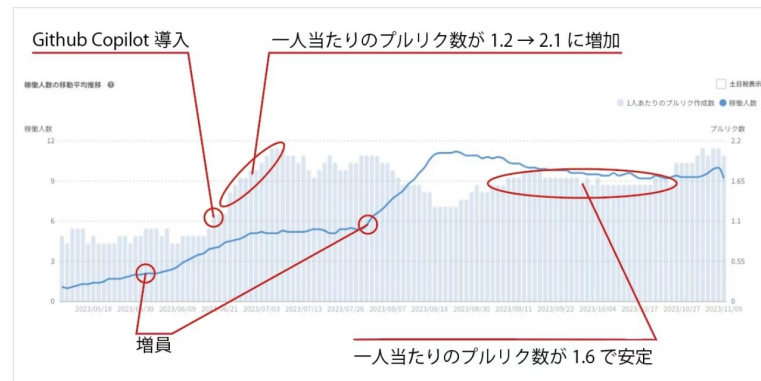
最終更新日 2023年11月14日 投稿日 2023年11月14日

総合PSJ: 45.8

質問	PSJ値
GitHub Copilotを利用して、どれくらい満足していますか？	75
GitHub Copilotを使用することで、プロジェクトの生産性が向上しましたか？	75
GitHub Copilotを導入する前と比べて、コードの品質やセキュリティに関して向上を感じていますか？	37.5
GitHub Copilotを導入したことでテストコードのカバレッジが向上したと感じますか？	0
GitHub Copilotを導入したことでドメインについて熟慮する時間は増えましたか？	0
あなたはGitHub Copilotを同僚や友人におすすめしますか？	87.5

- 上記の取り組み詳細 <https://qiita.com/hironaito/items/989e11fd0efb566089bc>

Findy Team+

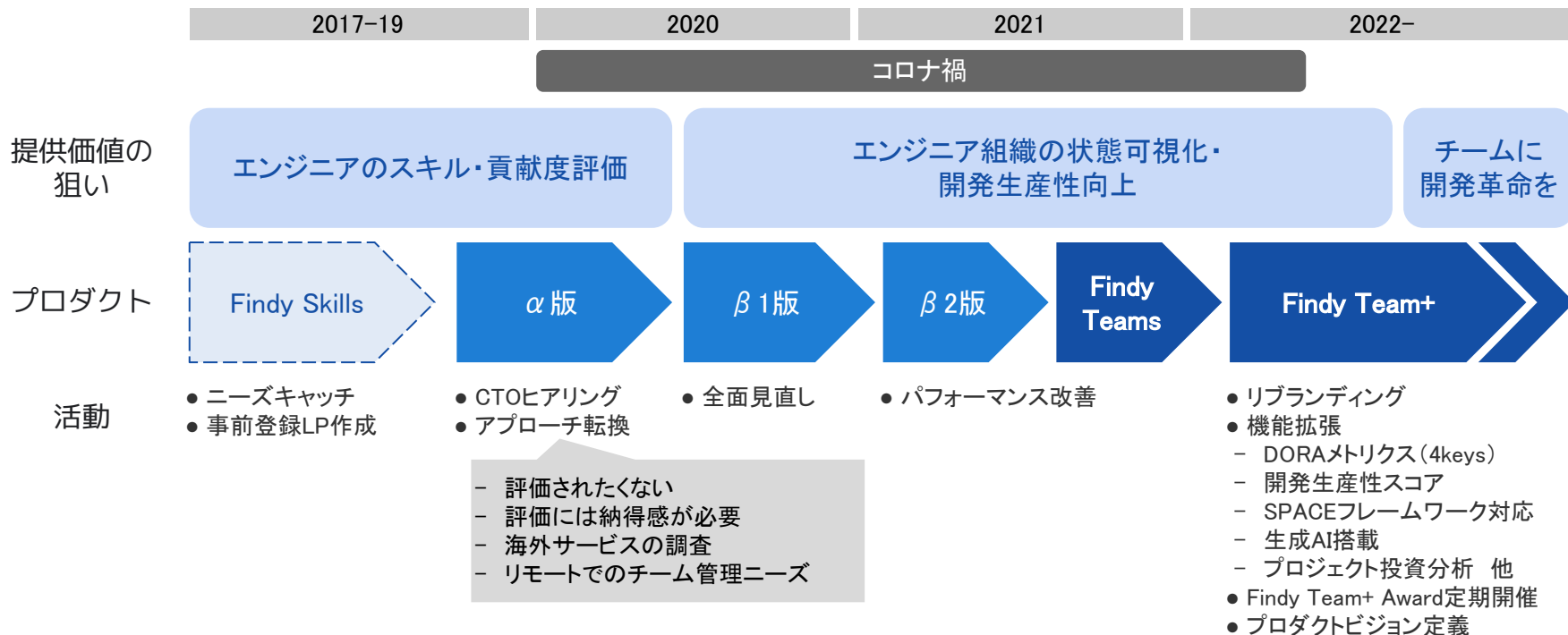


分析

- GitHubCopilot導入後、1日の1人当たりのプルリク数が1.2から2.1に増加
 - 導入前はおおよそ0.8~1で推移している
 - その後一番低い時点でも1.3でおおよそ1.6くらいを目処に推移
- プロジェクト開発を促進するために増員を2回行っておりGithubCopilotのみの影響ではないが開発に貢献している可能性はある。

開発の経緯

モックを作り始めてから、約1年半で正式リリース
その後約3年間、進化を止めず更なる発展を目指しています



プロダクト開発における意識

顧客の本質的な課題に対し、徹底的に目と耳を向け続けるだけでなく、同時に、自分たち自身が課題解決できるプロダクトを模索し続けています

顧客の課題感の細かな把握

徹底したユーザー目線

自らの徹底的なドッグフーディング

プロダクトビジョン

AIによるインテリジェント開発時代のチームマネジメントを支援、
効率的かつ効果的な生産性の高い開発プロセスの実現を目指します

チームに開発革命を

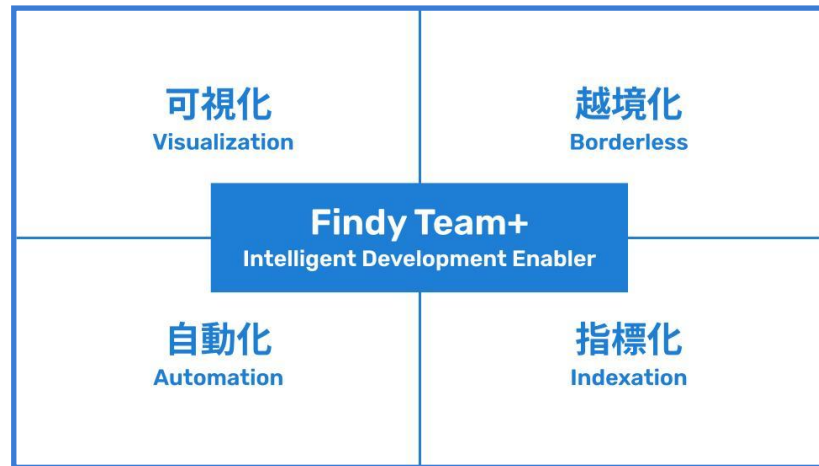
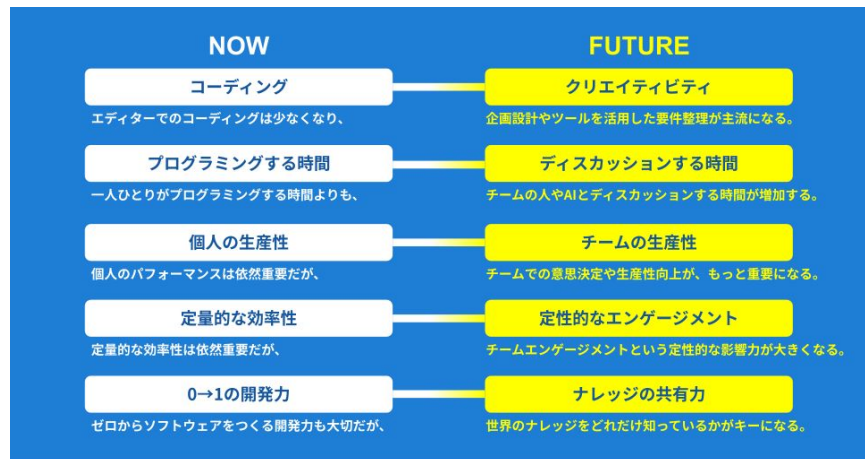
データとAIによって、ソフトウェアのつくり方が歴史的な変化を迎えています。

Findy Team+は、世界のあらゆるチームに開発革命をもたらすことが、
社会を大きく前進させると信じています。

チームという生き物をデータで捉え、AIでフィードバックすることで、
その開発プロセス自体をイノベーションし、生き活きとした開発者体験を実現します。
それは、チームとエンジニアの成功につながり、ビジネスの大きな成長を約束します。

プロダクトビジョンに基づく方針

AIとの協働時代に必要なマネジメントを
「可視化」「指標化」「自動化」「越境化」を通じて変革します



Appendix. 活用技術

市場のリーディングプロダクトとして技術の特許で守りながら、
模倣困難性の高い機能を構築し、継続的な価値を提供します

発明の名称（略称）	概略	特許番号
エンジニアチームの 組織パフォーマンス評価	開発チームにおけるレビューに関連する開発成果物の定量指標化、並びに評価	特許第7096983号
モチベーション低下と パフォーマンス向上検知	開発成果物を基に、メンバーのモチベーション低下やパフォーマンス向上を検知	特許第7219989号
サービス導入企業と他社との比較	開発チームやメンバーの他企業との各種パラメータを通じた比較	特許第7244141号
エンジニアチームのパフォーマンス の可視化（生産性スコア）	開発活動に関する情報に基づいた複数の指標の生成、並びに、チームの開発パフォーマンス評価	特許第7228940号
目標設定機能	定量的な指標・ベンチマークに基づいた、エンジニア個人による開発パフォーマンスを評価	特許第7338925号

Appendix. 連携・拡張性

コード管理ツール・イシュー管理ツールなど様々な開発ツールと連携
今後も開発プロセスにおける各ツールとの連携を実施します



Bitbucket



Jira Software



GitHub



GitLab



slack



REDMINE

flexible project management

and more...

